

概要報告

実施期日	8月1日(金)
部会名	中学校 道徳部会

テーマ 『 よりよく生きようと共に考え、共に語り合う道徳の授業づくり 』

提案概要

これまでに取り組んできた授業の中から、「生徒同士のやり取りがないこと、模範的は解答をしてしまう生徒が多いこと」を改善するため、①資料を読み終わっての感想を隣同士で伝え合う ②意図的に指名する ③前の発表者の意見についてどう思うか質問する という3点に重点を置き、指導展開の工夫をした。

また、「他の人に対して思いやりの心をもつことの大切さが理解できたかどうか」「他の人の意見を聞き、自分なりの考えをもつことができたか」という2つを今回の授業の評価観点とした。他の人の意見を受けて自分の考えを発言することができ、自分の考えに葛藤が生まれ、判断基準が深まったと考えられる。

資料を読み、隣同士で感想を言うことで最初に自分の考えをもつ時間を作ることができ、他の人の意見を聞くことで三角柱の変化(考えの変化)を見ることができた。しかし、主人公の考えや行動に関する発問に限定しすぎたため、生徒同士の意見が深まらなかった部分もあるので、今後は主人公だけではなく他の登場人物に関する発問を設定するなど、幅を広げて意見をつなげていくことが必要だと考えられる。

質疑概要

実際に実践するための留意点や、主人公の心情に沿って考えていく展開と自分自身の考えを話し合わせる展開のどちらが生徒にとって有効であるかについての質問が多く出た。

コの字型に座らせるメリットについては発言する生徒を見たり、お互いの意見に集中させたりすることができる。また、授業に参加しているという雰囲気を作るといふねらいがあるとのことだった。さらに『3色の三角柱』の使用については、全学年で使用し授業の展開に沿ってお互いの意思表示がすぐに分かるため有効であるとの回答だった。

授業のまとめとして「落としどころ」をどのようにしていくかという質問に対しては、主人公の心情も大切であるが、「落としどころ」を指導者が授業のねらいとして意図的に設定することが大切であると考えていた。また、生徒自身が自分のこととしてどう考えられるかまで発展させることが望ましいという回答であった。

研究協議概要

以下の2つの柱についてそれぞれ協議が行われた。

「読み物教材をどのように使っているか」「道徳の時間の評価について」

5つのグループに分かれ、各地区での取組状況と実践報告をしてもらった。

読み物教材については、各地区で状況が異なるものの、副読本を利用している学校が多かった。また、身近な本や新聞なども生徒の実情に合わせて選択することが可能であるが、どの教員でも実践できる授業内容であることが大切だという意見が発表の中であった。さらに、クラスの雰囲気にもつながるため、教材はしっかりと選び、準備をする必要もあるのではないかという考えも出された。教師がローテーションで道徳の授業を行う取組も報告され、全職員で授業に取り組めるとともに、担当教員の負担も軽減され、様々な角度から生徒に考えてもらえる利点があると報告された。

評価については、各グループで同じような考えが発表された。数値化することはできないため、「生徒が書いた感想や意見などを学級通信や学年通信に載せ、家庭へとつなげる。」「廊下に掲示し、考えの共有を図る。」「生徒の感想をファイリングし、3年間分ストックする。」等が挙げられた。また、「道徳では何を評価するのか」という点を指導者がしっかりと理解して授業に臨む必要があるという報告もあった。教師が期待する模範解答を出すことが道徳ではなく、いいことを書いたから良い評価ではないということを生徒に伝える必要があるという意見が出された。

まとめ概要

道徳の時間のねらいは、ある程度予想される模範解答や教師の主観を伝えることではない。様々な資料や教材を使いながら、生徒に考えさせることが大切であり、お互いの意見や考えを受け入れ合うことが重要である。授業の中の意見の発信と受信の大切さが今回の研究を通して実感された。今回の研究では、誰でも同様に道徳の授業を展開できるような、授業案の作成や指名の仕方、自分の意見を示す三角柱の利用や同じ教材を使用するなどの授業技術等が、校内研究により、均一化されたものの成果であると助言された。足並みを揃えて授業を統一していくことは難しいかもしれないが、校内研究を充実させ、道徳の授業に取り組むことも教科化を考えていく中で必要なことなのだろう。多様な価値観を持つ生徒を前にし、生徒全員が共通理解できるような内容の教材を準備し、ねらいをしっかりと押さえることが今後の課題となる。

道徳の評価は、1時間の道徳の時間のみで見取ることは困難なことである。複数回に渡り授業を展開するのも1つの方法であり、道徳的価値は普段の生活の中で実践し身につけていくものである。あらゆる場面において生徒を観察し、生徒と関わっていかなければならない。道徳的価値は①価値理解 ②人間理解 ③他者理解を求めており、多岐にわたって理解を図るようにすることが大切である。それぞれの時間のねらいとの関わりにおいて、生徒の心の変容を様々な方法で捉え、適切に評価し、指導の改善に生かすことが必要である。年間指導計画に基づいて教材準備を入念に行い『補充・深化・統合』して道徳的価値の自覚を目指していきたい。

最後に、参加者からは「実践報告や各校の取り組み状況が聞けて参考になった」「同じような悩みを抱えていることを知ったと同時に、道徳の授業の大切さが分かった」などの感想をいただいた。今回の研究がこれからの道徳授業に生かさせることを期待したい。